

# ～保育士が働きやすい職場づくりに向けた取り組み 好実践事例～

## ★CASE 5★

### あさり保育園(江津市)

#### 【保育園DATA】

- 所在地: 江津市浅利町336-4
- 法人名: 社会福祉法人花の村
- 定員: 70名  
※平成28年8月2日時点で  
在籍数75名
- 職員構成(保育士)
  - ・正規職員 11名
  - ・臨時職員 4名
  - ・パート職員 1名
  - ・保育助手 1名
- 法人内他施設
  - ・さくら保育園(定員50名)



#### ○園長 相山 慈 園長が大切にしていること

保育士が保育を楽しむ！

#### ☆相山 慈 園長略歴☆

- ・学卒後県外の一般企業で勤め、介護事業と保育事業を行う「社会福祉法人花の村」へ入職。
- ・平成14年4月からあさり保育園園長に就任。平成28年6月より法人理事長兼任となる。

#### 保育士がいきいきと働ける環境を整備するために

##### ○保育士が保育を楽しむために

「職員に長く働いてもらうために、制度面の充実はもちろん必要だが、それ以前に保育士が『保育が楽しい』と思える職場作りを大切にしたい」と相山園長は話します。

あさり保育園は民営化にあたり職員の再構成が行われましたが、数年間は職員の出入りが続きました。園長は「当時保育理念はあったが、保育現場に浸透していなかった」と振り返り、理念から具体的な保育方法を導き出すための『保育の軸』について、職員と何度も話し合いを重ねました。

そして、～1人ひとり違うことを認め、個々の発達に応じた保育を～この考えを軸に、年齢別のクラス編制をやめて異年齢クラスによる保育を実施し、子ども達が活動を自由に選択できる状況や「自分で選ぶ・決める、意見をきちんと言う、言ったら同じ分だけ人の声も聞く」場面作りなど、「あさり保育園の保育」を基礎から再構築しました。

このことが職員に浸透するまでは3年程度要しましたが、その結果、職員が保育方法に迷う事がなくなり、安心して保育に臨めることが保育の楽しさにつながり、その頃から職員の定着を感じるようになりました。

##### ○『チーム保育』で多面的な保育の実践と保育士の負担軽減

あさり保育園では、3.4.5歳児の異年齢クラスを保育士5～6人が1つのチームとなり保育をしています。チーム内では、①リーダー②サブリーダー③アシスタントⅠ④アシスタントⅡ⑤フリーと役割を分担し1週間ごとにローテーションします。

チーム保育の良さは、子ども達をたくさんの目で多面的に捉え、職員みんなで話をして考えることができる点です。また、一人で全責任を背負わず、書類も分担する事で事務作業の軽減にもなり、保育士の働きやすさにつながっています。

## あさり保育園での取り組み紹介①「スタッフミーティング～何をやってもよい時間」

あさり保育園では毎月1回18時～上限2時間の設定で「スタッフミーティング」を行っており、パートを除く全職員が超勤対応で参加をしています。

以前の職員会議では決まった人しか話さないことが多くあり、それを変えたいとの園長の思いから、イメージを変えるために名称を「スタッフミーティング」と変更し、内容も「何をやってもよい時間」というように一新しました。子ども達についての話し合いはできるだけ日中に行い、スタッフミーティングではミーティング係が毎月考えるテーマに基づき話し合いや作業を行います。

過去には子ども達の運動会を考える上で、「まずは大人が運動会をやってみよう！」とミーティング時間に園庭で職員運動会を行ったこともあります。

8月の「スタッフミーティング」テーマは ①「もくもくの日」（行事）のガイドブックを作ろう、②各クラスの表札を作り直そう、③園庭の木々について調べ図面を作ろう という3つです。

職員は興味のあるテーマを自由に選択し参加します。小グループで話し合いや活動を行う事で、話しやすい雰囲気になり、若い先生の意見も出やすく活発な議論が行われる良さがあります。

～自分の思いを伝え、自分とは違う思いも受け入れる～ 子ども達にこうあってほしい姿を、まずは目の前にいる大人がモデルとして示したいという思いから生まれた取り組みの一つです。

## あさり保育園での取り組み紹介②「リフレッシュ休暇＝みんなで3(スリー)デイズ」

あさり保育園では、保育士の日頃の頑張りに制度面で応えるために福利面で様々な取り組みを考えてきましたが、その一つに「リフレッシュ休暇」があります。

これは、日頃連続した休みが取りにくい職員に、年1回土日に3日の休暇を加えて5日間の連続した休みを取得させるというもので、有給休暇とは別に設けています。制度が始まった当初は「みんなで3(スリー)デイズ」と呼んでいたこの休暇。「職員全員に良い精神状態で仕事をしてもらいたい」「休みをしっかりとって趣味や様々な体験をし、それを日々の保育の場に活かしてほしい」との園長の思いから制度化しました。園の全職員に取得してもらうために、リフレッシュ休暇は年間スケジュールを考慮しながら職員数以上の候補日を園側が提示し、職員同士が譲り合って調整することで、基本的には全員が取得しています。

保育士が日々の保育を楽しみ、時にはしっかりリフレッシュする。ワークライフバランスの実現に向けて、園全体で取り組んでいます。

## ☆職員の声☆



釜田 舞美 先生

- ・保育士歴15年目
- ・2歳児を担当
- ・5代目ミーティング係
- ・2歳と3歳の子育て中

今年度ミーティング係を担当しています。

毎月のテーマ設定には苦勞もありますが、活発な意見交換をすることで、職員間の関係が良くなっていると感じています。

子育てとの両立は大変ではありますが、家族に協力してもらいながら楽しくやっています。

自分の好きな事を保育に活かせることに楽しさを感じ、自分を活せる場所がここだなと感じています。

いろんな方に当園のような保育もあるという事を見て感じてもらいたいと思っています。



盆子原 拓 先生

- ・保育士歴11年目
- ・1歳児を担当
- ・「もくもくの日」考案者

保育の仕事は、自分の興味・関心のある事を取り入れさせてもらえることにやりがいや楽しさを感じています。やりすぎた時には修正するための声かけを下さる職員もいて、しっかり受け止めていただいていることを感じながら、保育の中で自分を表せています。

月に1度子ども達が自然や地域の中で1日を過ごす「もくもくの日」もその一つです。行先は子ども達が話し合って決めます。天候に関わらず、雨の日はレインコートを着て出かけ雨の日を楽しみます。

## ♪ 保育っていいな ♪ ～日々の1コマより～

取材に伺った日、園にボランティアに来ている男子中学生がいました。将来保育士になりたいからと、自ら尋ねてきたそうです。彼はこの園の卒園児で、幼い頃にお世話になった先生に憧れて、保育士を目指しているそうです。園の中では、常に彼の周りを数人の子ども達が取り囲み後を追っていました。自分たちが行っている保育がつながっていく…その姿を見守る先生方のまなざしは、とても温かいものでした。

